シャドーイングがスピーキングに与える効果

武生高等学校　探究文科3年

1.Abstract

Our research began with the motivation of improving English speaking ability. We consider shadowing as an effective method of speaking English, and some papers say it is certain that proficient shadowing skills has a lot to do with speaking English. In this way we decide our research question, which is “How does speaking ability benefit from Shadowing activities?” We looked over some literature and we found that the act of shadowing is effective in building the correct passages.

2.要旨

私たちの研究は、英語を話す能力を向上させるという動機から始まった。そこで、シャドーイングは英語のスピーキングに効果的な方法であるのではないかと考えた。先行研究において、熟練したシャドーイングスキルが英語を話すことに大きく関係していることがわかった。しかし具体的にどのような効果があるのかはわからなかった。よって、「スピーキング能力はシャドーイング活動からどのような効果を得るのか」という問いを立てた。いくつかの文献を調べたところ、シャドーイングが正しい文法を構築するのに効果的であることがわかった。

3.はじめに

ⅰ目的

人々が英語学習をする上で感じている苦労はなんだろうか。単語が覚えられない、長文が読めない、など様々なことがあるだろう。私達の研究は英語を上手に「話す」ことができないという悩みから始まった。スピーキングが大学入試に今のところ必要とされないために、現在の学校の英語の授業では読んだり書いたりする活動に重点がおかれている。ではどのように練習すればよいだろうか。私達は「シャドーイング」という練習方法に着目した。「シャドーイング」とは聞いた文章をそのまますぐに発話する活動だ。ぜひYouTubeなどで検索して実際に見てみてほしい。

ⅱ先行研究

ではなぜ私達がシャドーイングに着目したのか。『飯野厚、2013、「音読・シャドーイングとスピーキングの関係」(理論研究・実証研究、中部地区英語教育学会第42回(岐阜)大会)42 巻 p. 139-146」』によるとスピーキングとシャドーイングには、ある共通点がある。スピーキングは、概念化と言語化と音声化からなる活動と言われている。漢字からだいたい想像がつくように、概念化とは言いたいことを頭でイメージすること、言語化とは頭の中で言いたいことを文字化すること、音声化とは実際に発声することだ。対してシャドーイングは、英文を読まずに聞こえてくる音声をすぐに発話する活動だ。よって、共通点は、スピーキングとシャドーイングは頭の中で作った文章にせよ聞いた文章にせよ、すぐに発話しなければいけない、という点だ。つまりシャドーイングもスピーキングも素早い音声化が必要ということになる。だから私達はシャドーイングがスピーキングの練習になりうる、と考えた。さらに、『飯野厚、2013、「音読・シャドーイングとスピーキングの関係」(理論研究・実証研究、中部地区英語教育学会第42回(岐阜)大会)42 巻 p. 139-146」』ではシャドーイングの評価とスピーキングの評価は因果関係があるのかを調査していた。表中の数字はスピアマ

ンの順位相関係数という相関係数の一種だ。アスタリスクがついている項目が有意な関係があるということを示している。
流暢さ:繰り返し、言い直しを除いた総語数÷発話時間(秒)(WPM) 総音節数 ÷ 発話 時間(SPM)
複雑さ:1UNIT中の語数平均(WPU)、1UNIT中の音節数平均(SPU)、1語中の音節数(SPW)、タイプ・トークン比率(TTR Guiraud Index:異なり語数÷総語数の平方根)
正確さ:1UNIT中の誤りの数の平均(#ERR)、誤りのないユニット数の平均(EFU)

	Speak 評価	流暢さ		複雑さ				正確さ	
		WPM	SPM	WPU	SPU	SPW	TTR (GI)	#ERR	EFU
Shadowing 評価	.683**	.336	.437*	.097	.350	.434*	.394	-.163	.546**
Shadowing スコア	.496*	.179	.273	.102	.376	.324	.181	-.155	.362

* $p < .05$, ** $p < .01$

例えば、赤囲みに注目すると、シャドーイングのスコアが高いことと、スピーキングの評価が高いことには有意な関係があることを示している。しかしこの文献では、スピーキングが苦手な人がシャドーイング練習によってスピーキングが上達するのかどうか、加えてその際どのような効果が得られるのかが不明である。

iiiリサーチクエスチョン
「シャドーイングはスピーキング能力にどのような効果があるのか」というリサーチクエスチョンを立てた。

iv研究の意義
シャドーイングがスピーキング能力に与える効果を明らかにすることで、スピーキングの練習にシャドーイングが活用され、結果、英語学習者のスピーキング能力が向上する。

v 仮説
シャドーイングによって正確なイントネーションを身につけることができると考えた。なぜならば、シャドーイングはネイティブスピーカーとほぼ同時に発話するため、自然とネイティブスピーカーのイントネーションが身に付くだろうと考えたからである。

4.実験方法
私達は、インターネット上に上がっている論文を読み、論文で述べられている結果、考察等を参照して研究を行った。なお、その際、甲南女子大学の米崎里准教授、法政大学の飯野厚教授、仁愛大学の紺渡弘幸教授に論文を紹介していただいた。この場を借りて感謝する。

5. 結果
①飯野厚、2014-03、「シャドーイング練習が英語スピーキング力とシャドーイングの認識に及ぼす影響」『法政大学多摩論集』30、105-121
を1つ目の根拠として引用する。

この文献は、シャドーイングがスピーキング力に影響を及ぼすかどうかを研究したものであり、シャドーイングの効果を明らかにするために、シャドーイングの前後で行なった英検の2次試験のようなスピーキングテストの結果を語彙・文法の観点で評価している。

被験者は東京都内の大学2年生、3年生で合計64名である。被験者の全員が非英語専攻の日本人英語学習者で、3ヶ月以上の長期英語圏滞在歴はない。英語熟達度の指標として、TOEICの模擬試験による平均点は、454.47（SD=114.67）であった。これは64名中の一部47名における平均値である。語彙の評価基準は、難易度の高い語彙を使用した場合が高評価となる。文法の評価基準は、文法ミスの量や程度で判断され、ミスが少なく理解できる場合が高評価となる。下図は、シャドーイングの前後のスピーキングテストの平均点の推移を表したグラフである。グラフの縦軸はスピーキングテストを5段階で評価したときの平均を表している。シャドーイングを行ったグループは「実験群」で23名、リスニングを行ったのが「統制群」で41名である。等分散の仮定に基づいて、両群の事前テスト間の比較を行ったところ、実験群の平均値（M=2.43)と統制群の平均値(M=2.88)の間に有意差は検出されなかった。そのため、両群は指導前の段階において等質とみなすことができる。

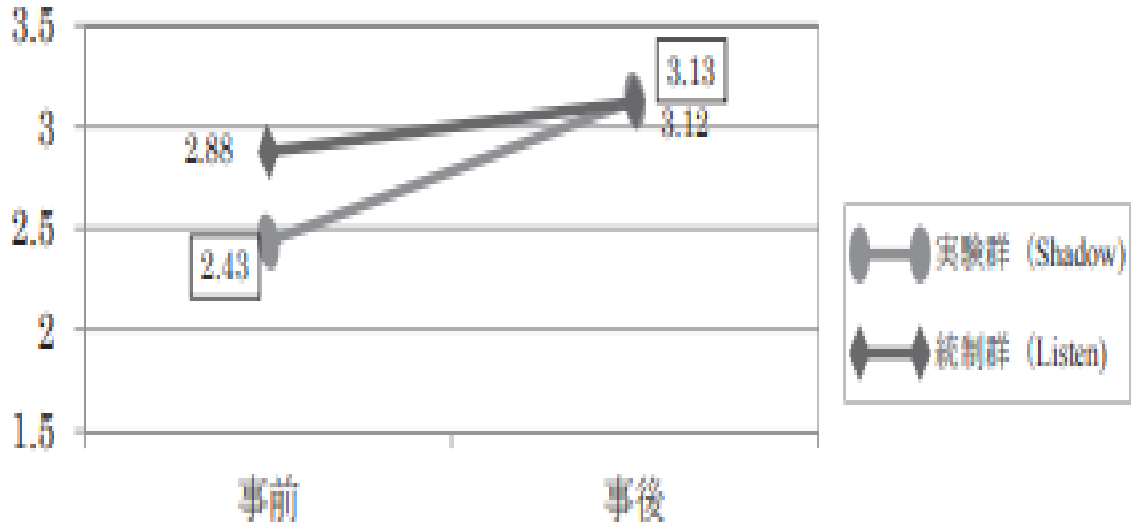

図5　スピーキング（語彙・文法）平均点の推移

上図より、シャドーイングの前後でスピーキングテストの平均点が2.43から3.13に上昇していることがわかる。これは実験群において中程度の効果量があることを示す。一方で統制群における効果量は実験群よりも小さかった。つまりスピーキングテストの語彙・文法の観点での向上に、シャドーイングはリスニングよりも貢献したということになる。

このことから、シャドーイングの前後で難しい語彙の使用が増えたり、文法のミスが減ったことがわかる。

②佐藤之美、2008、「シャドーイング練習が学習者の英語プロダクション能力に与える効果」を2つ目の根拠として引用する。

この文献は、シャドーイング練習がスピーキングの文法正確性に及ぼす影響を調べるために、被験者にシャドーイングで練習させ、実験の前後でスピーキングテストを課している。　下図はそ

のテストの結果で文法的に正しい音節の推移を表している。音節とは1音で発音されるまとまりで、音節には母音が1つ含まれる。

	プレ	ポスト
文法的に正しい音節数	11.25	14.25

表より、シャドーイングの前後で、スピーキングテストの文法的に正しい音節数が増えたことがわかる。

6. 考察

1つ目の文献より、シャドーイングによってスピーキングテストの文法ミスが減少したこと、2つ目の文献より、文法的に正しい音節が増えたことがわかる。これら2つの結果から、「シャドーイングはスピーキングのとき、文法的に正しい文章を作る効果がある」と考えられる。

以下の考察は、飯野厚、2014-03、「シャドーイング練習が英語スピーキング力とシャドーイングの認識に及ぼす影響」『法政大学多摩論集』30、105-121を参考としている。

その理由は、シャドーイングがスピーキングの難易度を下げるからと考えられる。この「難易度」とは、頭の中で組み立てられた文章を短時間で発話することを指す。

このシャドーイングがスピーキングの難易度を下げるプロセスには、スピーキングの仕組みが深く関係しており、スピーキングは、「概念化」「言語化」「音声化」の3つのモジュールからなる活動である。そしてシャドーイングは、耳から入ってくる音声をすぐに発音する活動で、素早い音声化が必要とされる。つまり音声化が必要な点でシャドーイングとスピーキングは共通している。そのため、シャドーイングをすることによって素早い音声化、つまりすぐ発話することに慣れて、音声化が簡単にできるようになる。音声化の負担が減ることにより、スピーキングの際「言語化」により集中することができ、その結果、正確な文章をつくる事ができる。

7. 結論

1つ目の文献より、シャドーイングによってスピーキングテストの文法ミスが減少したこと、2つ目の文献より、文法的に正しい音節が増えたことがわかる。これら2つの結果から、シャドーイングのスピーキングにおける効果は、「正確な文章を作る効果」と結論づける。

また、私たちの「正確なイントネーションが身につく」という仮説は、これを裏付ける文献が無かったため証明されなかった。

8.今後の課題

・実際にこの結果が正しいのかを実験によって確かめる。
・シャドーイング以外の方法はスピーキングにどのような効果があるのか調査する。

9.参考文献

飯野厚、2014-03、「シャドーイング練習が英語スピーキング力とシャドーイングの認識に及ぼす影響」『法政大学多摩論集』30、105-12

佐藤之美、2008、「シャドーイング練習が学習者の英語プロダクション能力に与える効果」

飯野厚、2013、「音読・シャドーイングとスピーキングの関係」(理論研究・実証研究、中部地区英語教育学会第42回(岐阜)大会)42 巻 p. 139-146